

齊藤光

偽情報発信者の特徴分析

——ファクトチェックの効率化に向けて——

要旨

SNSは現代の流動的な情報社会に欠かせないツールであり、人々の生活の一部になっている一方で、偽情報・誤情報の拡散が問題となっている。そうした偽情報への対抗手段として生まれたのがファクトチェックであり、現在では日本を含めた世界中にファクトチェック団体が設立されているが、人員不足や資金不足などから、ファクトチェックの活動には制約がある。

本研究ではファクトチェックの効率化に着目し、X（旧 Twitter）を対象に常習的に偽情報を発信するアカウントが見受けられ、常習的に偽情報を発信するアカウントの特徴を「政治スタンス、投稿に含まれている感情表現、論調、アカウント同士つながり」について分析した。その結果、①外在的チェックを行わず内在的チェックに依存する傾向②保守・右派的政治指向が多いこと③怒りを中心とした断定的な感情表現が用いられていること、という3つの特徴が確認された。一方で、影響力のあるアカウント同士のつながりは限定的であり、返信欄での多くのフォロワーを持たないアカウントによる肯定的な反応が偽情報発信者の主張を強化している可能性が示唆された。

この分析で判明した特徴に該当するアカウントをラベリングし、投稿と同時に偽情報への注意喚起を行うシステムを導入するといった SNS 運営者の対応が可能になるだろう。これにより、偽情報の拡散量が抑制され、ファクトチェック団体の負担軽減につながる可能性が示されたと考えられる。